

# TS（トータル・サティスファクション）を目指して MI5

## 社会を「生きていく」力のために

校長室担当より

昨年から引き続き、本校のミッションを、TOTAL SATISFACTION「一人一人が少し損をしてでも全体の幸福の総量を増やすこと」とし、これを基に本校の最上位理念は、RESPECT「自他を一人残らず大切に考えること」＋ SELF-DIRECTION「自己主導性：自分で考えて、判断して、主体的に行動すること」としています。この二つが、社会で「生きていく」ために本当に必要なことだと考えています。

私が小学生時代にはよく言い聞かされていた、「ルールだから守りましょう」とか「ルールだからしょうがない」という言葉。そこには思考停止があります。何のためにこのルールがあるのかを子どもたちが考えることができなければ、今までの社会はともかく、今後彼らが迎える社会の中で、彼らが「生きていく」力はつきません。また、「怒られるからやめよう（しよう）」という考え方も同じです。子どもたちは「怒られなければやってもいい（やらない）」ということを学んでしまうことになり、いつまでも「見張る」人が必要な状況が続きます。

大切なのは、うまくいかないことを自分で認識して、考えて改善する行動をとれるようにすることです。そのためには、私たち大人がお手本を示し、粘り強く対話を重ねることで、気づかせる。言い換えれば、「あんな大人になりたいな」と子どもたちが思えるような人間に私たちがなり、「あらゆるタイミングで、その子どもの心に響き、理解できる言葉を探しながら、皆で繰り返し伝えること」が大切なのです。このことが結果として、「どの大人も同じことを言っている。自分がうまくいかないのは、もしかしたら自分が変われないから？」と少しずつでも自分で考え始めさせることになり、彼らの新たな行動へ結び付けていくのです。ルールに関していえば、「ルールに対して疑問があるなら、どうしたらいいと思う？」と声をかけることで考えさせ、さらに次の行動を促す。これが社会に出た時に彼らが人生で様々な課題をのりこえていく力、つまり「生きていく」力となります。時間がかかるケースもありますが、子どもたちが自分で気づきを引き出すために、まずは私たち大人自身が徹底してぶれないモデルとしての姿勢を子どもたちに示し、パートナーとして対話し続けることで支援していきましょう。（令和7年4月16日）